



—北アフリカ地域ニュース—

エジプト：ムバーラク大統領の仲介努力

(18-19 日付現地各紙)

18-19 日付エジプト各紙は、18 日にカイロで行われたムバーラク大統領とアッバース PA 大統領、ミッチェル米中東和平担当特使、ネタニヤフ・イスラエル首相との各会談及びその他の中東和平関連協議について報じた。概要は以下のとおり。

1. 会談の概要

- (1) ムバーラク大統領は、アッバース大統領と二国家解決に対するパレスチナの見解とその実現に向けた環境作りに必要な手段、またパレスチナと米国の交渉状況等について協議した。
- (2) ムバーラク大統領とミッチェル特使の会談（45 分間）では、同特使が過去 2 日間に行ったイスラエル、パレスチナ、ヨルダン政府高官との協議結果を説明した上で、イスラエル・パレスチナ間の直接交渉の開始を働きかけたとされる。他方で、ムバーラク大統領は、米国が直接交渉に向けて前向きな雰囲気を作り出すようイスラエル・パレスチナ間の仲介努力を強化するよう求めた。
- (3) ムバーラク大統領は、ネタニヤフ首相と間接交渉から直接交渉への移行問題について議論し、イスラエル側に対して、イスラエルが真に和平を求めているとパレスチナ人が確信できるような見解や行動を取るよう求めた。また、直接交渉が中東和平問題の最終的な解決を達成するための手段であることを確認した上で、これまでの間接交渉は直接交渉に移行するだけの成果を生み出していないことを強調した。

2. 会談後、アブゲイト外相は、以下のような趣旨の発言を行った。

- (1) イスラエルの安全保障やパレスチナの国境問題等について双方に隔たりがあり、両者の直接交渉を再開するには現時点では時期尚早である。
- (2) 間接交渉から直接交渉に移行するため、イスラエルに対して、①パレスチナ国家の国境は 1967 年の国境に基づくもので、②交渉中は完全に入植地建設を停止し、③交渉は無期限ではなく厳格な時間枠を設けなければならない、という 3 点の受入れを求める。
- (3) ムバーラク大統領は、ミッチェル特使から間接交渉の成果に関する報告書と米国の中東和平問題への関与やパレスチナ国家建設等に関するオバマ大統領からのメッセージを受け取り、また 18 日朝、クリントン国務長官から電話連絡を受けた。

3. その他の協議

- (1) 17 日、アッバース大統領は、ミッチェル特使とラマラで 3 時間会談した。ミッチェル特使は、会談後、協議内容について発言することを拒否した。パレスチナ側は、特に入植地建設問題を強調しつつ直接交渉に移る条件が揃っていないと再表明した上で、直接

交渉における米国政府の立場について説明を求めた。(なお、ここ数週間、アッバース大統領が提示する直接交渉への移行のための条件は、入植地建設の完全凍結から国境と安全保障の問題における進展 (progress) へと後退していた。)

- (2) 18 日朝、ネタニヤフ首相は、ミッチェル特使とエルサレムで会談したが、内容は公表されなかった。
- (3) 17 日夜、ムーサ・アラブ連盟事務総長は、アッバース大統領とカイロで会談し、29 日に開催予定のアラブ和平イニシアチブ・フォローアップ会合等について協議した。
- (4) 18 日、ムーサ・アラブ連盟事務総長は、ミッチェル特使と会談し、文書による合意なくして間接交渉から直接交渉へ自動的に移ることは不可能であるとの趣旨を発言し、米国の働きかけをけん制した。
- (5) 17 日、アシュトン EU 外交安全保障政策上級代表 (外相に相当) は、ファイヤード PA 首相とラマラで会談した。同代表は記者会見で、EU が PA に 4000 万ユーロの財政援助を拠出すると発表した。